



据付説明書

A651H3BK

I Hクッキングヒーター
(一般家庭用)

販売店・据付業者様用

据付けされる方へのお願い

- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付けが必要です。
据付けの前に、この説明書を必ずお読みください。
- ガス事業者への連絡をせずにガス工作物（ガス配管、ガスメーター、ガス栓等）を無断に撤去することは法令により規制されておりますので、事前にガス事業者への連絡が必要となります。
- レンジフード（換気扇）を連動させる場合は、必ず指定の赤外線式レンジフード連動システム対応のレンジフードを取り付けてください。
- この説明書は、必ずお客様にお渡しください。
- 据付け完了後に試運転を行い、お客様へ正しい使いかたをご説明ください。

1 据付け前に

1-1. 安全のために必ずお守りください

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

■図記号の意味は次のとおりです。

 警告	死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
 注意	軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの

 禁止	 分解禁止	 接触禁止
 アース線を必ず接続せよ	 指示に従う	

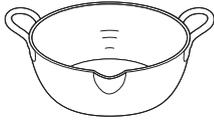
警告

 禁止 トッププレートに衝撃を加えない 万一ひびが入ったり割れると、過熱・異常動作・感電の原因 ※トッププレートの上に乗ったり、物を落としたりしない	 指示に従う 200V・30A以上の専用回路と漏電遮断器を設置する この工事をしないと、配線部が異常発熱するおそれあり
 分解禁止 分解・改造・修理はしない 発火したり異常動作して、火災・感電・けがの原因 ※トッププレートを取り外さない ※電源コードの直付けはしない	 指示に従う 据付けは、この「据付説明書」に従って、確実に 据付けに不備があると、漏電・火災の原因
 アース線を必ず接続せよ アース接地工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事がD種接地工事を行う 漏電時に感電のおそれあり	 指示に従う 据付けは、販売店または専門の工事店が実施する 間違った据付けは、事故の原因 お客様ご自身での据付けは、事故の原因
 指示に従う 電気配線工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事が施工し、必ず専用回線を使用する 接続・固定が不完全な場合、漏電・火災の原因	

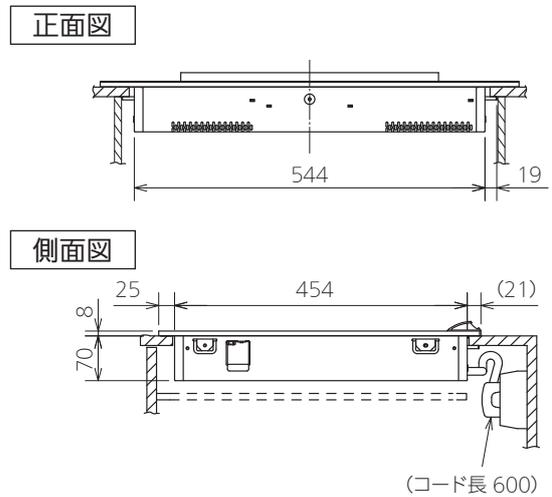
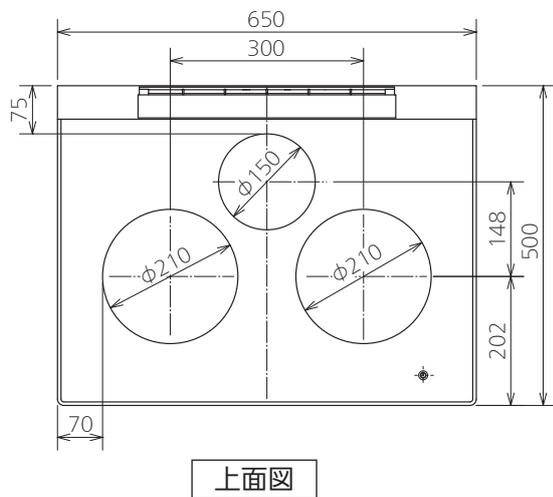
注意

 接触禁止 試運転中は、トッププレートなど高温部に触れない やけどのおそれあり	 指示に従う ワークトップの材料は、耐熱材料のものを使う 熱硬化性樹脂化粧板(JIS K 6903)またはこれと同等以上のもの 耐熱性の低い材料を使用すると、変形・火災の原因 ※ニス引きのものは変色するため、使わない
--	--

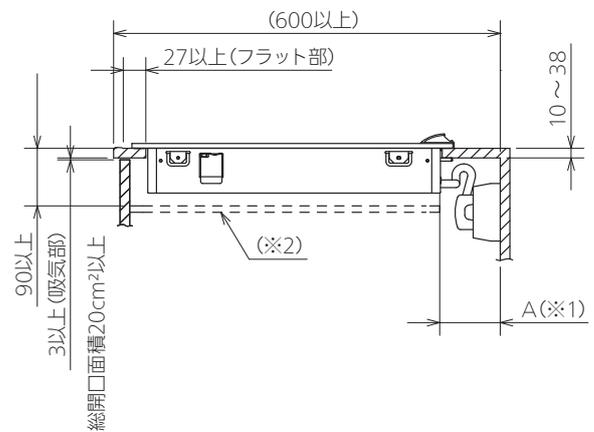
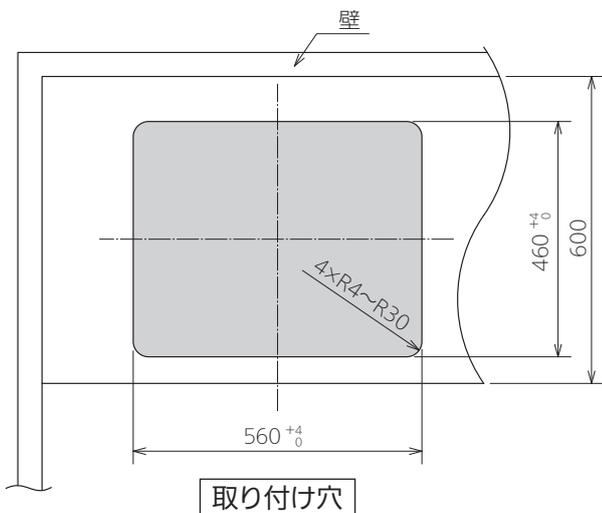
1 - 2. 同梱品を確認する

① 専用天ぷら鍋	② 説明書
1個 	取扱説明書 ... 1部 据付説明書 ... 本書

2 製品外形寸法図 単位：mm



システムキッチンとの関係寸法図



※1：パナソニック製の露出コンセント(WK36301B)を使う場合は、A寸法が80mm以上必要です。
 また、埋込型コンセントが背面にある場合は、A寸法が30mm以上必要です。

※2：仕切り板を取り付ける場合は、着脱式にしてください。
 (固定金具取り付け時に取り外すため)

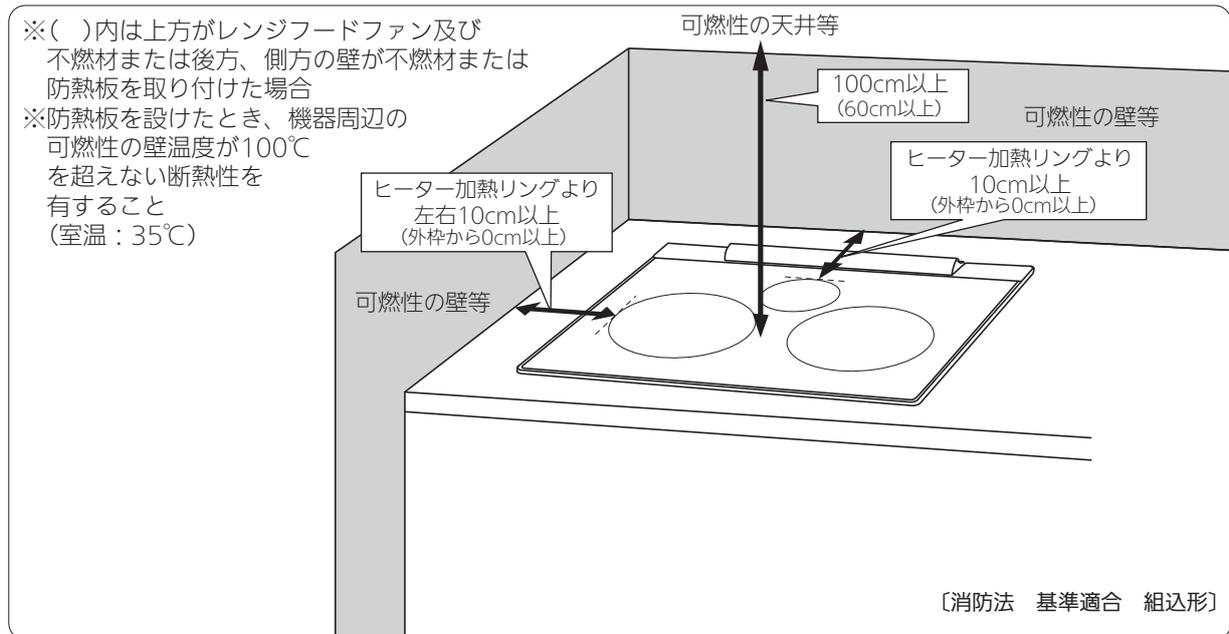
3 据付け場所の選定

本IHクッキングヒーターは、日本電機工業会自主基準で制定された『特定の安全性を備えた調理油過熱防止装置付電磁誘導加熱式調理器の設置に関する自主基準(HD-134)』において『特定安全IH調理器』として適合した製品です。

火災予防条例、電気設備技術基準に従って設置してください。

壁・天井等からの距離

■ 周囲が可燃性の壁の場合(防火構造壁以外)

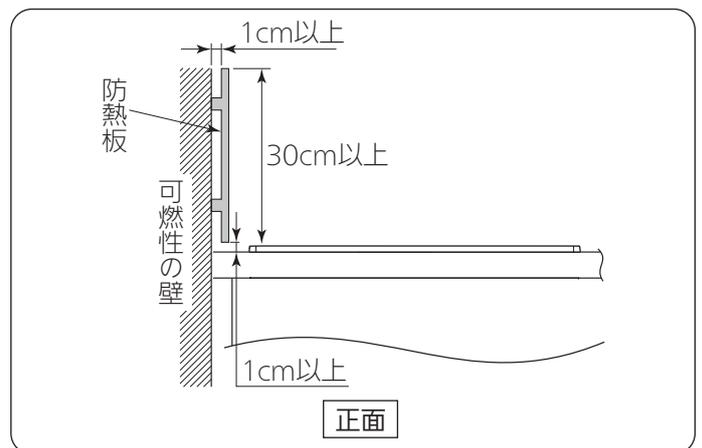
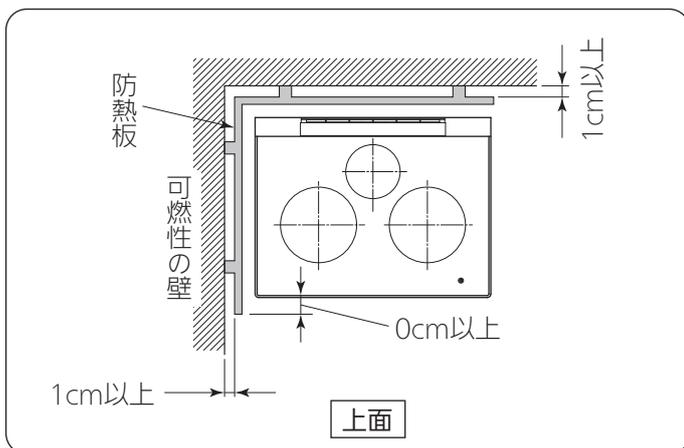


お願い

製品の金属部がシステムキッチンの金属部と接触する場合は建造物の壁中の金具(メタルラスなど)とシステムキッチンの金属部を接触しないようにするか、または、製品の金属部がシステムキッチンの金属部に接触しないように取り付けください。(電気設備技術基準で危害なきよう設置することが定められています)

■ 可燃性の壁から、上記の距離を離して設置できない場合

● 防熱板を取り付ける



警告



アース線を必ず接続せよ

アース接地工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士がD種接地工事を行う

漏電時に感電のおそれあり



指示に従う

電気配線工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が施工し、必ず専用回路を使用する

接続・固定が不完全な場合、漏電・火災の原因

専用回路と漏電遮断器の設置

■電源にブレーカー付きの専用回路を設置する

- 200V・30A以上の専用回路を設置する
- 電源は必ず「単相3線式 200V」を使用する
- 三相200V(動力電源)には絶対に接続しないでください。(故障の原因)
- 屋内配線用電線は、線径φ2.6mm以上のものを使ってください。
- ご使用のコンセントに適用電線の指示がある場合は、それに従ってください。

■漏電遮断器を必ず設置する

【推奨漏電遮断器】 定格電流30A、感度電流15mA

パナソニック製：BJS3022N(HBモジュール)

BSHE23022(コンパクトタイプ)

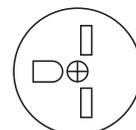
コンセントの設置

■電源コンセント …………… 単相定格250V・30A(一極接地用)

※推奨コンセント パナソニック製：WK36301B(露出型)
WK3630(露出型)
WF3630B(埋込型)

- 電源コードの直付けは、絶対にしないでください。
- ※直付けは製品の改造となり、故障や損傷の場合、保証期間内でも有料修理になります。

コンセント
差し込み形状



接地2P30A

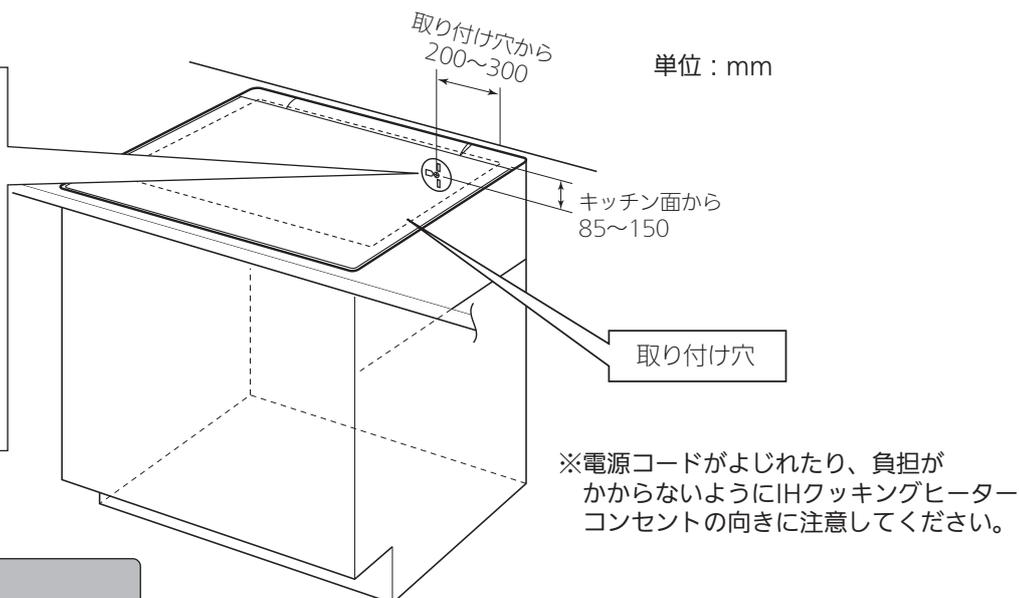
■推奨コンセントの位置(例)

システムキッチン背面の壁のこの位置にコンセントを設けてください。

【コンセントの向き】



※コンセントの向きに注意してください。
コードがキャビネットにあたります。



単位：mm

警告



分解禁止

分解・改造・修理はしない

発火したり異常動作して、
火災・感電・けがの原因
※トッププレートを取り外さない
※電源コードの直付けはしない

※システムキッチンに据付けする場合

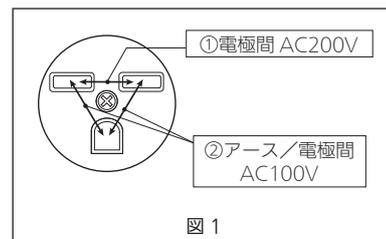
システムキッチンに据付けする場合は、システムキッチンに添付の取付・設置説明書に従い、十分な取付強度を確認の上、コンセントを取り付けてください。

5 据付けする

5 - 1. 据付け前の準備 **重要**

1 正しく单相200V配線がされているか確認する(図1参照)

- テスターで測定する
- ①電極間AC200V
- ②アース/電極間AC100V



5 - 2. 本体の据付け

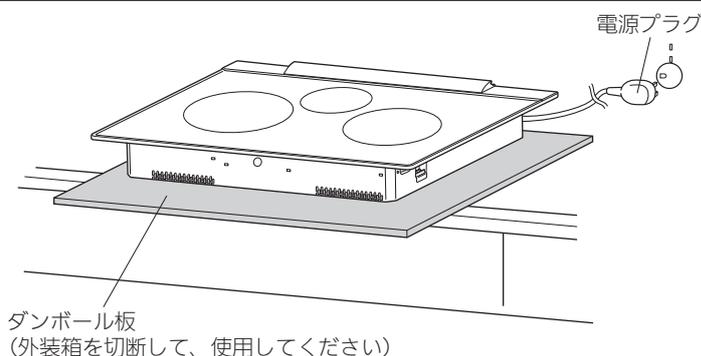
■ガス事業者への連絡をせずに、ガス工作物(ガス配管、ガスメーター、ガス栓等)を無断に撤去することは、法令により規制されておりますので、事前にガス事業者への連絡が必要となります。

■据付け場所が、常に水平で安定していることを、必ず確認してください。

本体の据付け (ブレーカーを“切”にして、据付けを行ってください)

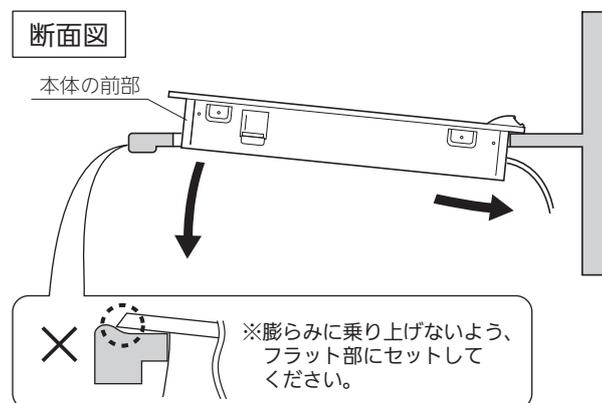
1 電源プラグを差し込む

- ワークトップに傷を付けないように外装箱を切断して、使用してください。

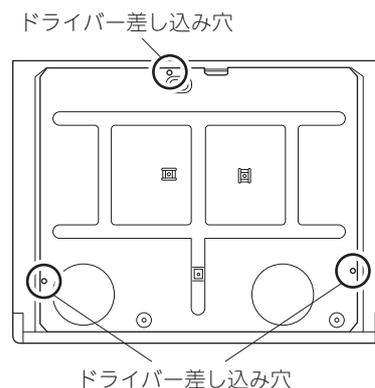
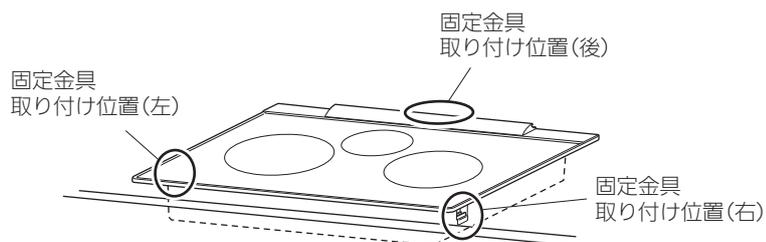


2 ワークトップに本体の後面を挿入し全体をはめ込む

- 本体をワークトップに当てない
 - フレーム下面とワークトップのすき間が、前後左右で均一であることを確認する
- (本体挿入時に、本体の底面・側面とキャビネットの間に電源コードが挟まると、本体が浮いてすき間がバラつきます。
※背面のすき間が狭いキッチンの場合、本体を前側へ寄せ、電源コードのスペースを確保してください。)



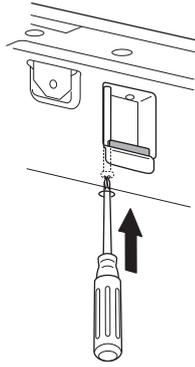
3 ワークトップに固定金具を固定する(左右2箇所・後中央1箇所)



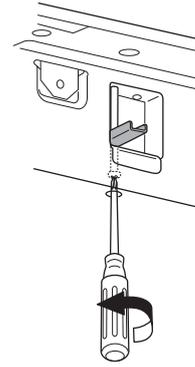
本体底面図

※ドライバーは、トルク管理のできるものを使用してください。締め付けすぎると、固定金具が破損します。
※本体とキャビネットのすき間が狭く取り付けが困難な場合、固定金具は1箇所でも構いません。締めつけトルクを守り固定してください。

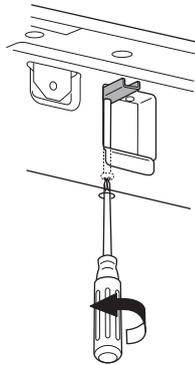
- ①本体底面のドライバー差し込み穴より、
本体にあるネジの十字ミゾに
ドライバーを差し込む



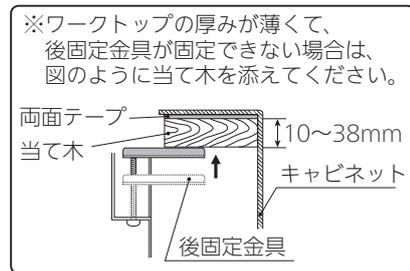
- ②ドライバーを反時計回り(緩める方向)に
回してください。
※固定金具が、本体から出てきます。



- ③さらにドライバーを反時計回り
(緩める方向)に回すと、固定金具が上昇し、
ワークトップに固定できます。
※締めつけトルクは、**0.6 ~ 0.7N・m**
締めつけ過ぎると、固定金具が破損します。



- ④同様に、残りの固定金具も固定してください。



4 据付け状態を確認する

- 据付けが完了しましたら、下表に従ってもう一度点検し、チェック欄に○印をしてください。
不具合がありましたら、必ず直してください。(機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません)

確 認 項 目		チェック
梱包材の取り外し	ダンボール・発泡スチロール・テープ類・ビニールシートなどの取り忘れがないか?	
外 観	トッププレート部のフレームに浮きがないか?	
電 気 工 事	重要 アース接地工事(D種)が行われているか? ※接地抵抗値は100Ω(低圧電路において、地絡を生じた場合に0.5秒以内に 当該電路を自動的に遮断する装置を施設するときは、500Ω)以下であること。 ※ご不明な点は、販売店または電気工事店にご相談ください。	
	重要 漏電遮断器が設置されているか?	
固 定 金 具	締め付けされているか?(左右2箇所・後中央1箇所)	
試 運 転	7ページ 「6: 試運転」を行い、正常に動作したか?	

6 試運転

6 - 1. 試運転手順

試運転確認

■お客様立ち会いで試運転を行ってください。
据付け完了後、次の手順で内容を確認し、チェック欄に○印をしてください。

確認項目		チェック
① ブレーカーを「入」にする		
②  をピッと鳴るまで押し、電源を入れる	➔	 がオレンジ色に点灯する      が白色に点灯する
③ 各ヒーターの動作確認をする お湯を沸かして確認する (右IHヒーターの場合で説明します)	➔	火力ランプ1～9が青色に点灯する ※1 
 を押す	➔	火力ランプ1～4が赤色に点灯、 火力ランプ5～9が青色に点灯し、 液晶に4が表示される ※2  
 または  のどちらかを押す	➔	
お湯が沸くのを確認したら  を押し、  をピッと鳴るまで押して、電源を切る		

※1：中央ヒーターは、火力ランプ1～5が青色に点灯します。

※2：中央ヒーターは、火力ランプ1～2が赤色に点灯、3～5が青色に点灯し、液晶には何も表示されません。

連動確認

■レンジフード(換気扇)との連動を確認してください。
IHクッキングヒーターの操作にあわせて、レンジフードが運転します。

確認項目		チェック
① レンジフードの動作確認をする 上記「試運転確認」の手順②～③をする	➔	火力ランプ1～9が青色に点灯する  レンジフードが「中」で運転する
② レンジフードの停止確認をする  を押す	➔	火力ランプが全て消灯する レンジフードが一定時間作動した後、停止する (レンジフード設定による)
確認が終わったら  をピッと鳴るまで押して、電源を切る		

●試運転後は、必ず電源ボタンを「切」にしてください。

●レンジフード連動の設定については、取扱説明書の24ページをご覧ください。

●レンジフードによっては、レンジフードのリモコン設定が必要となりますので、レンジフードの説明書もご確認ください。

●同梱品一式は、必ずお客様にお渡しください。

●据付け時に電気工事が完了していない場合は、引渡し時に必ず試運転を行ってください。

据付完了
確認者印

6 - 2. 総消費電力の切り替え手順

総消費電力(5500W、4800W、4000W)を切り替えます。(工場出荷時は5500Wに設定されています)

<p>①  をピッと鳴るまで押し、電源を入れる</p>	<p>→</p>	<p> がオレンジ色に点灯する      が白色に点灯する</p>
<p>②  を約2秒長押しして、機能設定モードにし さらに  を3回押す</p>	<p>→</p>	<p>機能設定モードのランプが  →  →  →  の順に 緑色に点灯し、中央IHの   がオレンジ色に点灯する  (総消費電力の切り替え)の点灯時は、 右液晶表示部に 、左液晶表示部に  が表示される</p>
<p>③  または  のどちらかを押して設定を選ぶ</p>	<p>→</p>	<p> 「55」→「48」→「40」→「55」  「55」→「40」→「48」→「55」</p>
<p>④  を押す</p>	<p>→</p>	<p>設定完了 ※  を押さないと、設定は変更されません。</p>
<p>設定が終わったら  をピーッと鳴るまで押して、電源を切る</p>		

6 - 3. お客様への説明

- 別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。
 特に「安全のために必ずお守りください」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- この据付説明書は据付け終了後、お客様へ必ずお渡しください。なお、(同梱の)取扱説明書(保証書付)も、必ずお客様にお渡しください。
- ご使用になられるお客様がご不在の場合、発注者(オーナー・ゼネコン)様や管理人様へご説明ください。

据付年月日	年 月 日
据付店名	
	TEL

アリアフィーナ株式会社
 富士工業株式会社

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-1-9